



赤彩球胴壺 (北上市・千刈遺跡)

令和3年度 埋蔵文化財公開講座

38年戦争と エミシの赤い土器

奈良時代後半から平安時代の初め、中央政府と在地エミシが戦い続けた「陸奥国38年戦争」。この間北上盆地の和賀川北岸では『赤彩球胴壺』と呼ばれる、独特な赤い文様の土器が作られた。

38年戦争について新たな見解に導いてくれる、重要な歴史の証人である。

● 講師紹介 ●
北上市立博物館 館長 / 杉本 良

1961年群馬県生まれ。東北古代史・中国考古を専門とする。国見山廃寺跡、江釣子古墳群などの調査で多くの成果を挙げ、東北地方の古代史に関わる多数の著作がある。



令和3年度 遺跡報告会

(公財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター

令和4年
1月29日[土]

会場
いわて県民情報センターアイーナ
小田島組☆ほへる

入場無料



大谷地Ⅲ遺跡 [奈良時代の環状区画溝]



中林下遺跡 [平安時代の掘立柱建物群]



中平遺跡 [縄文時代前期と平安時代の竪穴住居]

プログラム	
12:30	開場
12:50	開会
第一部 埋蔵文化財公開講座 (1時間30分)	
「38年戦争とエミシの赤い土器」	
13:00 14:30	講師 北上市立博物館 館長 杉本 良 先生
休憩 (15分)	
第二部 発掘調査遺跡報告会 (1時間25分)	
令和3年度の概要報告 (14:45～14:50) 参事兼調査課長 金子 佐知子	
14:45	報告1 大谷地Ⅲ遺跡(花巻市) (14:50～15:15) 主任文化財専門員 八木 勝枝
16:10	報告2 中林下遺跡(奥州市) (15:15～15:40) 文化財専門員 北田 勲
	報告3 中平遺跡(野田村) (15:40～16:05) 主任文化財専門員 村木 敬
講評	
16:10	閉会
16:20	閉場

ご案内

施設見学 や **体験教室**

埋蔵文化財センターでは様々な体験学習を行っております。お問い合わせやご相談を、お待ちしております。

ホームページも随時更新中!
イベント情報や遺跡情報などを掲載しています。是非ご覧ください。



編集・発行 (公財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185
TEL: 019-638-9001 FAX: 019-638-8563
E-Mail: i-maibun@echna.ne.jp
URL: http://www.iwate-maibun.jp/
印刷 東京カラー印刷株式会社

©(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2022

第42回 埋蔵文化財展 同時開催!

遺跡報告に係わる遺物を展示中!

1月28日(金) 30日(日)

- 宮古市内の復興発掘調査
- 令和3年度の発掘調査速報展
- エミシの赤い土器

会場: 5階 ギャラリーアイーナ (9:30～16:30)

ご来場の際は、**マスク** の着用をお願いします。

新型コロナウイルス感染の拡大防止のため、**マスク・手指の消毒・ソーシャルディスタンス**へのご協力をお願いします。



「公財」岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター
キタノタケ
しだないさん

令和3年度の調査概要

今年度の発掘調査は、12遺跡・面積34,396㎡を対象に実施しました。北上盆地と沿岸北部に多く、3市2町2村に及んでいます。調査原因は、道路建設関連が最も多く5遺跡、次いで農業基盤整備関連4遺跡、産業廃棄物処理施設整備関連1遺跡、市町村からの委託事業2遺跡です。

縄文時代

野田村中平遺跡、平清水Ⅱ遺跡で縄文時代前期、普代村力持遺跡で中期、八幡平市栴沢Ⅱ遺跡で後期の集落跡を調査しました。中平遺跡では竪穴住居を26棟も確認しましたが、土器が極端に少ないことが注目されます。力持遺跡では調査面積は少ないものの、竪穴住居や貯蔵穴などおびただしい遺構が重なって見つかっています。中平遺跡、平清水Ⅱ遺跡、洋野町サンニヤⅢ遺跡、花巻市大谷地Ⅲ遺跡では陥し穴が見つかり、縄文時代の狩り場であることがわかりました。

弥生時代／古墳時代

今年度の調査では該当はありません。

奈良・平安時代

大谷地Ⅲ遺跡で奈良時代の集落跡を調査しました。竪穴住居や焼成土坑から蝦夷の儀式に使われたと推定される赤彩球胴甕や赤彩の坏が出土したことが注目されます。今年度は平安時代の遺跡が多く、6箇所を調査しています。奥州市の明神下遺跡は、昨年度からの調査で計90棟の竪穴住居が見つかりました。工房とみられる竪穴もあり、炉の跡や鉄滓の出土、鉄製品の多さから鉄製品づくりの村と見られます。緑釉陶器など一般集落にはない遺物もあり、胆沢城との関連が想定されます。奥州市の中林下遺跡は掘立柱建物で構成される遺跡で、何らかの役所に関連する遺跡と思われる。中平遺跡は「野田竪穴住居跡群」として知られる県史跡の北東側にあり、竪穴住居11棟、土坑5基を確認しました。隣接する平清水Ⅱ遺跡からも平安時代の竪穴住居2棟が見つかりました。そのほか、奥州市館遺跡、北上川左岸の自然堤防上に位置する紫波町境遺跡の集落を調査しました。

中世

中林下遺跡で戦国時代の居館跡が2箇所見つかりました。昨年度、二重の堀に囲まれた一辺50mほどの空間が検出されていましたが、今年度は堀の内側の精査を行い、門、通路の側溝、掘立柱建物のおびただしい数の柱穴などを確認しました。さらにここから50m南西で、ほぼ同じ規模の居館跡がもう1箇所見つかりました。堀は二重ではないものの、堀の中の水をせき止める施設や、屋敷地内に池を配することなど共通点が多いことがわかりました。

まとめ

今年度は、創設以来最も少ない調査面積で、遺構数、遺物ともに多くありませんでしたが、奈良・平安時代の遺跡において、当時の中央政府とこの地に住む人々との関わりを示す成果が得られました。中平遺跡、サンニヤⅢ遺跡は来年度も調査を行う予定です。

令和3年度 発掘調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	調査期間	開発事業名	調査面積 (㎡)
1	館遺跡	奥州市	平安	8/1～9/27	一般国道4号水沢東バイパス整備事業	1,000
2	力持遺跡	普代村	縄文	4/6～8/3	三陸沿岸道路建設事業	178
3	サンニヤⅢ遺跡	洋野町	縄文	10/5～12/15	三陸沿岸道路建設事業	1,882
4	栴沢Ⅱ遺跡	八幡平市	縄文	10/1～10/29	産業廃棄物処理施設整備事業	900
5	間野村・境遺跡	紫波町	平安	10/1～11/5	主要地方道紫波江繋線星山地区道路改良工事	620
6	中林下遺跡	奥州市	平安	4/7～9/30	経営体育成基盤整備事業（真城南地区）	8,220
7	明神下遺跡	奥州市	平安	4/7～7/30	経営体育成基盤整備事業（若柳中部地区）	7,930
8	平清水Ⅰ・Ⅱ遺跡	野田村	縄文・平安	4/6～6/30	農業競争力強化基盤整備事業（泉沢・中平地区）	2,949
9	大谷地Ⅲ遺跡	花巻市	縄文・奈良	4/8～10/15	（仮称）花巻PAインターチェンジ整備事業	5,982
10	大谷地Ⅲ遺跡	花巻市	縄文・奈良	9/16～9/30	都市計画道路山の神諏訪線道路整備事業	105
11	中平遺跡	野田村	縄文・平安	7/1～11/12	野田小学校建設事業	4,630

合計 12 遺跡：計 34,396

遺跡位置図



岩手県の遺跡略年表

年代	時代区分	主な事柄	報告遺跡	県内の主な調査遺跡	主な国・県指定史跡
BC 11,000年	旧石器時代	大型動物が生息する		遠野市金取遺跡 金ヶ崎町柏山館跡 西和賀町大台野遺跡 久慈市早坂平遺跡	
		気候が温暖になる 土器の使用が始まる		岩泉町竜泉新洞遺跡 盛岡市大新町遺跡 軽米町馬場野Ⅱ遺跡	
5,000年	縄文時代	大規模なムラができる 漆の本格的な使用が始まる	野田村 中平遺跡 ↓	住田町蛇王(蔵王)洞六遺跡 盛岡市芋田沢Ⅳ遺跡 二戸市馬立Ⅰ遺跡	(県)大船渡市関谷洞窟 (国)遠野市綾織新田遺跡
				宮古市千鷲遺跡 山田町沢田Ⅰ遺跡 八幡平市長者屋敷遺跡 盛岡市上八木田Ⅰ遺跡	
3,000年	縄文時代			普代村力持遺跡 九戸村田代遺跡	(国)奥州市大清水上遺跡 (国)大船渡市蛸ノ浦貝塚
				岩手町秋浦Ⅰ遺跡 紫波町西田遺跡 盛岡市山王山遺跡 盛岡市柿ノ木平遺跡	(県)盛岡市大館町遺跡 (国)宮古市崎山貝塚 (国)一戸町御所野遺跡
2,000年	縄文時代			洋野町西平内Ⅰ遺跡 平泉町新山権現社遺跡 軽米町長倉Ⅰ遺跡	(国)北上市榊山遺跡 (県)田野畑村館石野Ⅰ遺跡
				盛岡市川目A遺跡 大船渡市上鷹生遺跡 八幡平市曲田Ⅰ遺跡 北上市大橋遺跡	(国)北上市八天遺跡 (国)大船渡市下船渡貝塚 (国)大船渡市大洞貝塚
1,000年	縄文時代	亀ヶ岡文化が広がる			
300年	弥生時代	稲作が始まる 金属器の使用		北上市金附遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢市湯舟沢遺跡 岩泉町赤穴洞遺跡	
AD 300年	弥生時代	卑弥呼が邪馬台国王となる			
400年	古墳時代	大和朝廷が国家統一を進める 古墳が各地につくられる		奥州市高山遺跡	
600年		仏教が伝わる 大化の改新		奥州市中平入遺跡 北上市猫谷地遺跡 奥州市膳性遺跡 宮古市長根Ⅰ遺跡 山田町房の沢Ⅳ遺跡 奥州市杉の堂遺跡	(国)奥州市角塚古墳 (県)矢巾町藤沢鍛冶森古墳 (国)北上市江釣子古墳群 (県)岩手町浮島古墳群
800年	古代	奈良に都がつくられる(平城京)	花巻市 大谷地Ⅲ遺跡 ↓	奥州市台太郎遺跡 軽米町長角子久保Ⅳ遺跡	(県)岩手町仙波堤遺跡
		京都に都がつくられる(平安京) 胆沢城や志波城がつくられる 各地に荘園が広がる	奥州市 中林下遺跡 野田村 中平遺跡 ↓	宮古市島田Ⅱ遺跡 二戸市飛鳥台Ⅰ遺跡 一関市河崎の柵疑定地	(国)奥州市胆沢城跡 (国)盛岡市志波城跡 (国)矢巾町徳丹城跡 (国)金ヶ崎町島海柵跡
1,000年	古代	前九年合戦 後三年合戦			
1,200年	中世	奥州藤原氏の滅亡 鎌倉幕府の成立		奥州市接待館遺跡 奥州市衣の関道遺跡 平泉町柳之御所遺跡	(国)柳之御所・平泉遺跡群 (国)一関市骨寺村荘園遺跡
		鎌倉幕府の成立		盛岡市繁Ⅲ遺跡	
1,400年	中世	元寇 室町幕府の成立		花巻市笹間館跡 一戸町一戸城跡 紫波町柳田館跡 久慈市久慈城跡	
		応仁の乱		遠野市篠館跡 宮古市山口館跡 奥州市北館跡	(国)二戸市九戸城跡 (国)盛岡市盛岡城跡
1,600年	戦国時代	豊臣秀吉が全国統一 関ヶ原の戦い	奥州市 中林下遺跡 ↓		
1,800年	近世	江戸幕府の成立 鎖国が始まる			(国)北上市・金ヶ崎町南部領伊達領境塚
		大政奉還		紫波町栗田Ⅲ遺跡	
1,900年	近代	明治維新		遠野市佐比内鉄鉱山跡 住田町子銅沢Ⅱ遺跡	(国)釜石市橋野高炉跡 (県)釜石市栗林銭座跡 (国)奥州市高野長英旧宅

遺跡紹介

報告遺跡以外にも、多くの発掘調査を行っております。調査の内容を簡単にご紹介します。
P.2に遺跡No.と遺跡位置図

遺跡No.1



たて 館遺跡

奥州市【平安時代・近世】

後世の造成工事の影響で残りは良くありませんでしたが、平安時代の竪穴住居や土坑、近世以降と見られる柱穴状土坑や井戸などが確認されました。

遺跡No.2



ちからもち 力持遺跡

普代村【縄文時代】

平成26年度に続く調査で、狭い調査区ではありますが前回同様に縄文時代前～後期の竪穴住居や土坑、配石遺構などが見つかりました。

遺跡No.3



さんにや サンニヤⅢ遺跡

洋野町【縄文時代】

平成30年度に続く調査で、斜面地の分厚い盛土と表土を取り除いた箇所から、溝状に狭く深く掘り込んだ陥し穴が並んで見つかりました。

遺跡No.4



かばさわ 花沢Ⅱ遺跡

八幡平市【縄文時代】

当センターでは久しぶりに八幡平市での調査となりました。森の中の緩斜面地から、縄文時代後期の竪穴住居を確認しました。

遺跡No.5



あいのむら さかい 間野村・境遺跡

紫波町【平安時代・中世】

間野村は2箇年目で、今年度は程近い境の調査を並行して行いました。間野村では昨年度調査区から続く堀や掘立柱建物、境からは平安時代の竪穴住居などが見つかりました。

遺跡No.7



みょうじんした 明神下遺跡

奥州市【平安時代】

昨年度に続き、平安時代の竪穴住居や掘立柱建物などがたくさん見つかりました。竪穴住居からは、土師器や須恵器のほかに、短刀や刀子、鉄鎌などの鉄製品が多く見つかりました。

遺跡No.8



ひらしみず 平清水Ⅰ・Ⅱ遺跡

野田村【縄文・平安時代】

昨年度に引き続き2箇年目の調査で、縄文時代前期の竪穴住居のほかに底が外側へ広がるフラスコ状の貯蔵穴が20基以上見つかりました。



写真1：大谷地Ⅲ遺跡遠景(南から)

はじめに

大谷地Ⅲ遺跡は、豊沢川から南へ約600m離れた中位段丘上に立地しています(写真1)。標高は約95mで、ほぼ平坦な土地です。今回、(仮称)花巻PAインターチェンジ整備事業に関連し、5,982㎡を調査しました。その結果、奈良時代の堅穴住居3棟・住居状遺構1棟・掘立柱建物1棟・溝6条・焼成遺構18基・周溝1基、古代・古代以降の掘立柱建物2棟・柱穴状小土坑50個などを確認し、主に奈良時代の集落であることが分かりました。

遺跡の内容

今回の調査で特に注目されるのは、奈良時代集落に設けられた環状と弧状の溝です(写真2)。環状の溝は調査区のほぼ中央で検出しました。環状の最大直径は42mで、北側に長さ1.8mにわたって溝が途切れる部分があり、出入口と考えられます。溝の幅は約1m・深さは30~47cmと浅く、底面には凹凸が残されています。北の出入口から南に向かって環状溝の内側に入ると、すぐ西側に掘立柱建物、東側に一辺6.4mの大形堅穴住居があり、大形堅穴住居の奥に一辺2mの住居状遺構が配置されています(写真3)。カマドのない住居状遺構は、倉庫として使用された可能性があります。大形堅穴住居の北東に位置する土坑からは、蝦夷の儀式用の器とされる赤彩球胴甕が出土しました。環状溝内の南西域は同時代の遺構が認められない空白域となっており、広場としての利用が想定されます。環状溝の外側には小形堅穴住居・焼成遺構・周溝があり、環



写真2：環状溝と弧状溝(赤い塗りの部分)(上が北)



写真3：環状溝と内部施設(北から)



写真4：弧状溝(西から)



写真5：赤彩球胴甕焼成遺構



写真6：土器焼成遺構

状溝は大形堅穴住居などの施設を区画するために設けられた可能性が考えられます。

弧状の溝は調査区北端で検出しました(写真4)。弧状溝の長さは調査区内だけで85mあり、さらに東西に長く延びることが推定されます。幅は1.6~2.3m、深さは0.5~1mで断面形は逆台形、底面は平滑に整えられていて、環状溝よりも強固な構造です。溝の北側は、事前の試掘調査において遺構がないことが確認されています。そのため、弧状溝は大谷地Ⅲ遺跡奈良時代集落の北端に作られていると言えます。

遺物で注目したいのは赤彩土器です。赤彩土器は球胴甕がよく知られていますが、今回の調査では坏にも赤彩が施されているものが見つかりました。また、土器焼成遺構18基のうち3基から赤彩球胴甕・赤彩坏が出土しており、大谷地Ⅲ遺跡において赤彩土器を作っていたことが分かりました(写真5)。

おわりに

大谷地Ⅲ遺跡が営まれた8世紀末は38年戦争^{※1}のさなかにあたり、今回見つかった環状溝・弧状溝や赤彩土器は、蝦夷集落のあり方を知る上で貴重な発見と言えます。また、豊沢川流域には、7世紀後半から8世紀前半とされる熊堂古墳群や、熊堂古墳群との関連が指摘されている古館Ⅱ遺跡・古館Ⅳ遺跡・法領遺跡・下坂井Ⅰ・Ⅱ遺跡の集落遺跡が近接しています。大谷地Ⅲ遺跡は、豊沢川流域奈良時代集落の一つとしても注目されます。

主任文化財専門員 八木 勝枝

※1 38年戦争：778年~811年の38年にわたる朝廷と蝦夷との戦い。

中林下遺跡 (なかばやししたいせき)

平安時代(およそ1,200年前)
戦国時代末(およそ500年前)

奥州市



遺跡全景(南から)

はじめに

中林下遺跡は、奥州市水沢真城字中林下に所在し、西側に広がる一段高い河岸段丘から流れ下る大深沢川が、その東縁の崖際に形成した小さな扇状地の上に立地しています。

昨年度に引き続き、8,220㎡を対象に発掘調査を実施しました。今年度も昨年度と同様に、同一面から平安時代(9世紀頃)と戦国時代末(16世紀後半頃)の2時期の遺構・遺物が出土していることから、2箇年の成果を合わせて報告します。

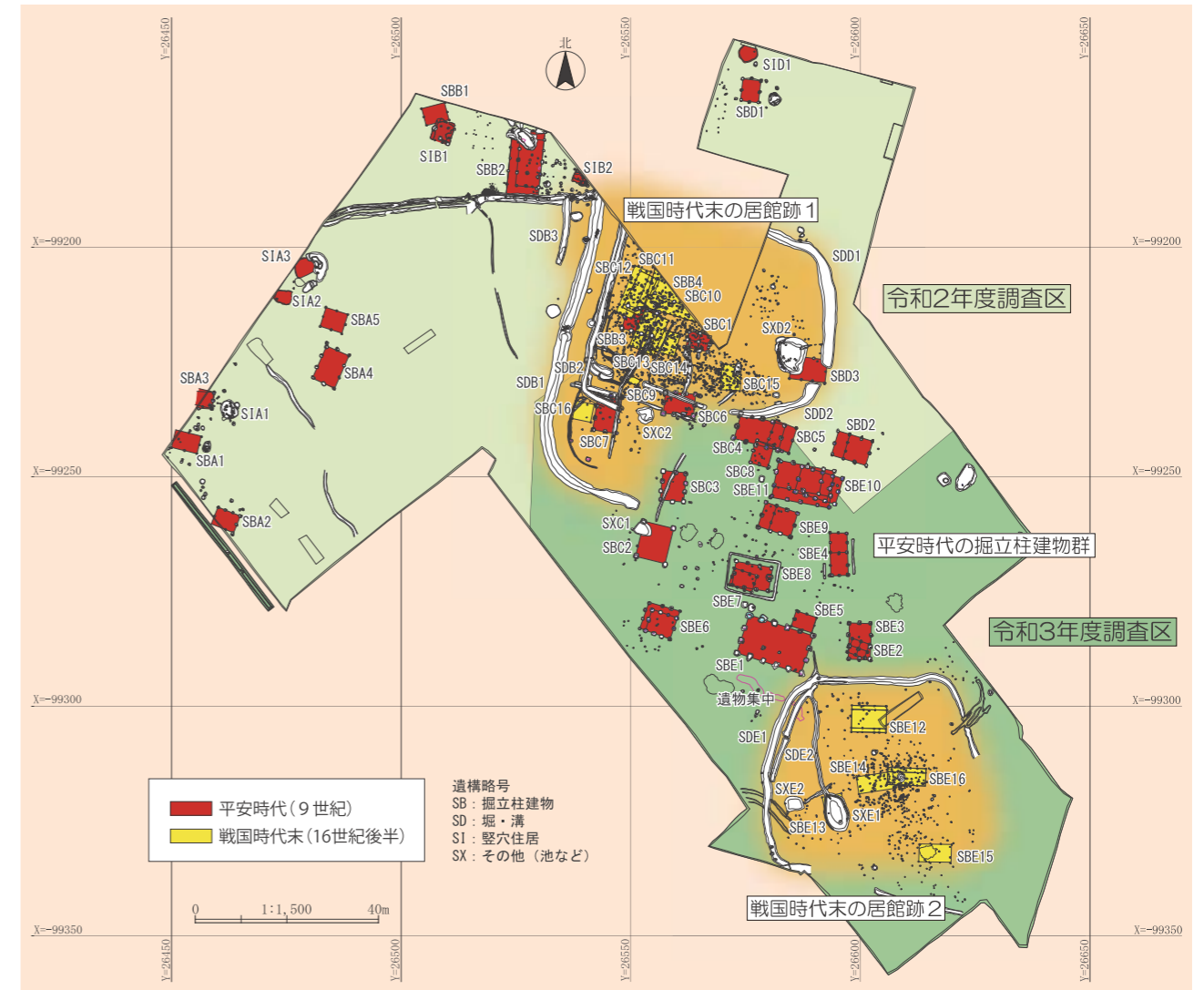
遺跡の内容

2箇年の調査で確認した主な遺構は、平安時代の掘立柱建物32棟(19)、竪穴住居2棟(0)、竪穴状遺構6棟(2)、池状遺構6基(6)、土坑10基(2)、戦国時代の掘立柱建物12棟(12)、堀5条(2)、溝26条(12)、池状遺構3基(2)、土坑12基(12)、柱穴2,443個(1,467)などです(カッコは今年度検出数)。遺物は、平安時代の概ね9世紀代を中心とする土師器・須恵器のほか木錘・支脚などの木製品が少量出土し、掘立柱建物に使用された柱材の根元部分や柱の根固めに用いた礎板・枕木が多く残っていました。また、戦国時代の15~16世紀代の陶磁器(中国産青磁碗や染付皿、瀬戸・美濃産天目碗・皿類など)や洪武通寶などの輸入銭、硯・石臼などの石製品、漆器椀・下駄・木錘・曲物・樹皮籠などの木製品、柱材など建築部材が見つっています。

平安時代の掘立柱建物は、いずれも一辺40~150cmの方形柱穴で構成されます。建物の規模



平安時代の掘立柱建物群(直上から、上が北)



検出遺構全体図

は8×5m前後が主体ですが、4×3m前後の小型や15×9mの大型のものもあり、様々です。また、重なり合っている建物もあり、建物の長軸方向や分布の様子からいくつかの時期に分けられそうです。これらの建物を構成する柱穴からは、柱材の根元部分や柱の不動不沈対策に用いられた礎板などが多く出土しており、木材には建築時の工具痕が確認されることから当時の建築技術の一端を読み取ることが可能かもしれません。このような掘立柱建物を主体とする特徴は一般集落には見られないこと、また、胆沢郡には朝廷によって造営された胆沢城が存在する地理的観点から見れば、本遺跡は律令支配における公的な性格を持った施設群と考えられます。

戦国時代末の居館跡は、昨年度に報告した北側の居館跡1のほかに、南側にも堀によって区画された居館跡2が見つかりました。居館跡1は大きな2つの堀によって囲まれた方形の平面形を有し、内部には複数の建物を構成する柱穴が密集して確認されており、内部東端には池が配置されています。また、居館跡2も一部が二重となる方形基調で南側は造成工事の影響で失われていますが、内部に複数の建物と池が配置されている様子は居館跡1に似通っています。いずれの居館も出土した遺物の年代観から、戦国時代末(16世紀後半)までに廃絶したと考えられます。

おわりに

本遺跡は、平安時代の掘立柱建物群は胆沢城を中心とする胆沢郡内の地域支配、戦国時代末の居館跡は近世以降に帰農した土着武士によって作られた豪族屋敷^{※1}を考える上で多くの示唆を与えてくれます。今後の整理作業で遺構・遺物をより詳しく観察し、遺構の変遷や在り方を捉えたいと考えています。

文化財専門員 北田 勲

※1 豪族屋敷：近世に多くの水田を有した武士を祖先とする富農の屋敷地で、堀(大溝)で区画される内部に母屋や付属屋、井戸などで構成される。

中平遺跡 (なかつたいせき)

縄文時代前期(およそ6,000年前)・平安時代(およそ1,100年前)

野田村



遺跡全景

はじめに

中平遺跡は、九戸郡野田村に所在し、^{みょうない いずみさわ}明内川と泉沢川に挟まれた標高約50mの丘陵上に立地しています。発掘調査は、野田村小学校建設事業に伴って、4,630㎡を対象に実施しました。

遺跡は、昭和29年に「野田竪穴住居跡群」として岩手県で初めて指定された県指定史跡です。今回の調査区は指定範囲の約150m北東側に位置しています。史跡の周辺で行われた調査履歴は、小規模調査が数例に留まることから、初めての大規模調査の事例と言えます。

遺跡の内容

調査の結果、縄文時代から平安時代にかけての遺構や遺物が見つかりました。

遺構は、縄文時代前期の竪穴住居26棟・土坑5基・陥し穴5基、縄文時代中期～後期の土坑5基・陥し穴32基、平安時代の竪穴住居11棟・土坑5基などです。遺物は、縄文時代前期の土器・石器、縄文時代中期～後期の石器、平安時代の土師器などです。

縄文時代前期：竪穴住居・土坑と陥し穴の時期に分けられます。これらは重なりから竪穴住居・土坑→陥し穴に移り変わることを把握しています。どちらの時期の遺構においても堆積土の上部には、約6,000年前に降下した十和田中振火山灰を確認しています。竪穴住居は短期的な利用が繰り返された結果、2箇所の大きなまとまりを形作っていること、陥し穴は竪穴住居よりも斜面下方に点在していることが分かりました。

縄文時代中期～後期：土坑と陥し穴の時期に分けられます。これらは重なりから土坑→陥し穴に移り変わ



縄文時代前期の竪穴住居群



平安時代の竪穴住居

ることを把握しています。土坑は数も少ないため全容は分かっていませんが、陥し穴は調査区全体に広がり良好な狩猟場であったことが分かりました。

平安時代：頂部で見つかった竪穴住居は、堆積土が概ね同じ内容であること、915年に降下した十和田a火山灰が共通した位置に堆積することを確認しています。このことから竪穴住居の年代は915年より古く、ほぼ同時期に存在していることが分かりました。さらに、竪穴住居は調査区外の頂部に広がることも確認していますので、列を成すように集落を形作っていたと予想されます。

おわりに

今回の調査により遺跡が立地する丘陵は、集落と狩猟場として繰り返し利用されていることが分かりました。このような土地利用の変遷が確認できたことは、当時の人々の生産活動を探るうえで貴重な成果と考えられます。調査は来年度も予定しており、遺跡の理解をより深めていきたいと思ひます。

主任文化財専門員 村木 敬



石器集中の出土状況



縄文時代の陥し穴